

Webを利用した語彙サイズテストの開発

茨城工業高等専門学校 人文科学科 (英語) 奥山慶洋

okuyama@ge.ibaraki-ct.ac.jp

1. はじめに

英語力には様々な側面があるが、中でも語彙力は重要な能力の一つであるといえ、大きく2つの観点からとらえることができる。「深さ」と「広さ」である。前者はある語についてどの程度詳しく知っているかという質的なものであり、後者はある外国語の語をどれくらい多く知っているかという量的なものである。本稿では後者の観点である語彙サイズに着目し、その測定のために使用する語彙サイズテストの作成と Web 発信方法について検討する。

2. 語彙サイズテスト

TOEFL・英検・CELTの語彙セクション等、英語力全般を測定するテストの一部としての語彙の設問はあるが、語彙サイズを測定する目的で作られた単独のテストはあまり多くない。例を挙げると、国外では、Nation(1990)の語彙サイズテストがあるが、日本人のように英語を外国語として学ぶ学習者を対象に行うテストとしては難しいという指摘(望月(1998))がある。国内では、Nationのテストを基に日本人学習者向けに改良した望月(1998)のテストが有名である。しかし、いずれの語彙サイズテストも語彙力の受容的(receptive)な部分を測定することに主眼がおかれているはずが、出題方法を見ると、発信的(productive)な部分を測定しているように思われる。つまり、両者のテストは与えられた訳語(または定義文)に適する語を選ぶという英作文や会話等の発信的な能力を求められるテスト形式になっており、あまり適切ではないと思われる。また、訳語が選択肢として与えられると、それを手がかりに本来は未習得である語を習得してしまったように判断されるケースがあるという欠点も考えられる。本テストでは、先行するテストの欠点を解消するた

めにいくつか考慮した項目がある。次項でその特徴を示す。

3. 本テストの特徴

本テストの特徴は、測定したい語彙サイズの代表的な語を提示し、その語について3つの尺度から判断する自己申告型を採用している点である。(図1)

年 組 番 氏名

以下の単語について
A: 見たこともあるし、意味もわかる。
B: 見たことはあるが意味はわからない(思い出せない)
C: 見たこともないし、意味もわからない。
という基準で判断し、最も近いと思われる記号を塗りつぶして下さい。

単語	A	B	C		単語	A	B	C
bridge	A	B	C		automatic	A	B	C
continue	A	B	C		bonus	A	B	C
cookie	A	B	C		cabbage	A	B	C
early	A	B	C		chess	A	B	C
elephant	A	B	C		coach	A	B	C
exam	A	B	C		coast	A	B	C

図1 試作版語彙サイズ測定テスト(一部)

この形式の利点はまず、先行テストの欠点である母語の介在による推測を防ぎ、受信的な部分の能力を測定できるようにしたことである。また、この方法は知っているかどうかを判断するだけなので受験者にとって負担が少ないため、より多くの語を使用してテストが作れ、語彙サイズテストの精度をあげることが期待される。次に、選択肢Bの「見たことはあるが意味はわからない(思い出せない)」という項目を設けたことによって Yes/No タイプのテストの欠点を解消した点である。Yes/No タイプテストの最大の欠点は、実際は知らない(未習得)のに知っていると答えるものと実際は習得できていた(時間をかけたら思い出せた)のに知らないと答えてしまうものが出てくるということである。これを解消するために設けたのが選択肢Bである。これの反対

で「見たことはないが推測可能である」という状況も考えられるだろうが、これは派生語などある特定のルールに当てはまる場合はあり得るだろうが、純粹にその語を習得しているとは考えにくく、また選択肢が4つになると負担が多くなり、先行テストとあまり差がなくなってしまうため設定していない。この形式を用いて本校学生約200名を対象に調査を実施した。データの詳細は、発表時に示す予定である。

4. Web ページ作成ソフトを利用したテスト作成

4.1 Web ページ作成ソフト利用の利点

3で見た語彙サイズテストをWeb上で受験できるようにする発信方法について検討したい。近年、いくつかのWebサイトで同様のテストが公開されているが、技術的に凝っていたり専門知識を持ったものの協力なしでは作れないようなものが多い。文系の教員にとってコンピュータは難しいものという意識があり、より簡単にしかも本格的なWebテストが作成できないかということを考えていたが、そこで可能性を見出したのがWebページ作成ソフトの利用である。以下で、代表的なソフトであるIBMホームページビルダーを取り上げ、その利用法について見ていきたい。

4.2 IBMホームページビルダーによるテスト作成

Web ページ作成ソフトの特徴の一つは、ワープロソフトを使う感覚でWebページが作成できる操作の簡単さである。特に今回の分析に取り上げたIBMホームページビルダーV9には、教材作成用のサンプルファイルが用意されておりcgiプログラムに関する知識がなくても簡単にテストやアンケートが作成できるようになった。その手順を簡単に示すと、メニューからテスト作成ウィザードを立ち上げ、その指示に従って、テストの名称・満点・制限時間等を設定した後、(図2)選択式出題の場合は問題と選択肢を入力するだけで良い。すべての問題の入力が終わりOKボタンを押すとWebページが表示される。(図3)

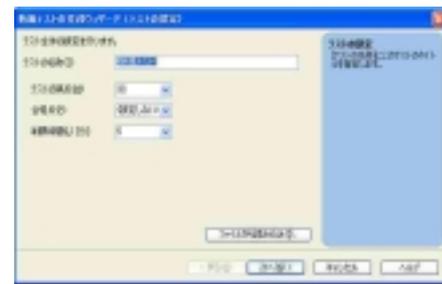


図2 テスト作成ウィザード



図3 語彙サイズテスト(試作画面)

このサンプルファイルを基に、本テストに合わせてページを作成していく。これについても発表時に完成版を提示する予定である。

5. 今後の課題

文系教員にとって、パソコンを活用した教育活動はなかなか困難であり、あまり使いたがらないというのが現状である。しかし、Web ページ作成ソフトのように比較的容易に教材が作成できるソフトを活用し、授業等に利用していくのは教員ばかりでなく学習者にとっても有益であると思われる。今回は、語彙サイズテストの発信という点からの検討であり、今後も発信したテストから得られたデータを分析しそのデータを英語教育にどのように活かしていくかを考えていくが、それとともにこのようなソフトをより効果的に活用していく方法(学習者が利用しやすい環境を提供するためのインターフェイスデザイン等)も継続して検討していきたいと考えている。

本研究は、文部科学省科学研究費補助金(課題番号16720140「Webを利用した語彙サイズ測定テストの開発」)の補助を受けた研究の一部である。